

令和3年度  
劇場・音楽堂等機能強化推進事業  
(地域の中核劇場・音楽堂等活性化事業)  
成果報告書

団 体 名	公益財団法人熊本県立劇場	
施 設 名	熊本県立劇場	
助 成 対 象 活 動 名	公演事業・人材養成事業・普及啓発事業	
内 定 額 ( 総 額 )	16,384	(千円)
	公 演 事 業	8,856 (千円)
	人 材 養 成 事 業	861 (千円)
	普 及 啓 発 事 業	6,667 (千円)

(1) 令和3年度実施事業一覧【公演事業】

番号	事業名	主な実施日程	概要 (演目、主な出演者、スタッフ等)	入場者・参加者数	
		主な実施会場		目標値	実績値
1	新日本フィルハーモニー交響楽団	令和3年7月15日(木)	出演：大友直人(指揮)、清水和音(ピアノ)、新日本フィルハーモニー交響楽団(管弦楽)	目標値	1,100人
		熊本県立劇場 コンサートホール		実績値	730人※
2	第63回熊本県芸術文化祭 オープニングステージ 「バレエ」－Never Stop Moving!－	令和3年8月29日(日) ※中止	新型コロナウイルス感染症の影響により中止。	目標値	900人
		熊本県立劇場 演劇ホール		実績値	－※

※ …新型コロナウイルス感染症の影響があったもの

(2) 令和3年度実施事業一覧【人材養成事業】

番号	事業名	主な実施日程	概要 (演目、主な出演者、スタッフ)	入場者・参加者数	
		主な実施会場		目標値	実績値
1	劇場人育成プログラム	令和3年6月22日(火) ～令和4年3月1日(火)	公共ホール職員向けの研修として「劇場スタッフに求められる接客スキル」など全9講座を実施した。	目標値	270人
		熊本県立劇場 中会議室ほか		実績値	236人
2	舞台技術の基礎講座	令和3年7月17日(土) ～18日(日)	舞台技術の基礎を学ぶ講座。中高生、大学生、専門学校生が対象で、将来の舞台技術者育成につなげるもの。	目標値	20人
		熊本県立劇場 演劇ホール		実績値	30人

※ …新型コロナウイルス感染症の影響があったもの

(3) 令和3年度実施事業一覧【普及啓発事業】

番号	事業名	主な実施日程	概要 (演目、主な出演者、スタッフ)	入場者・参加者数	
		主な実施会場		目標値	実績値
1	演奏家派遣アウトリーチ事業	令和3年10月～ 令和4年2月※	熊本県立劇場登録・協力アーティストによるアウトリーチ。 出演：池澤真子(S)、岡村彬子(Ms)、小路永和奈(箏)ほか	目標値	1,150人
		あさぎり町の小学校等ほか		実績値	1,229人 ※
2	市町村ホールネットワーク事業	令和3年5月～ 令和4年1月※	市町村ホールと連携し、県内全域で公演を実施する事業。 出演：林家たい平ほか	目標値	2,500人
		菊池市文化会館ほか		実績値	1,537人 ※
3	ケンゲキバックステージツアー	令和3年4月24日(土)、 令和4年1月22日(土)※	2つの専門ホールそれぞれの特徴にふれることができるバックステージツアー。	目標値	260人
		熊本県立劇場コンサートホール、演劇ホール		実績値	18人※
4	Art×Music 中川賢一× つなぎ美術館	令和3年11月14日(日)	美術館の特別展に関連し、美術館を会場としたピアノコンサートを開催。 出演：中川賢一(ピアニスト)	目標値	250人
		つなぎ美術館		実績値	63人※
5	劇場って楽しい!! 知的・ 発達障がい児(者)にむけ ての劇場体験プログラム	令和3年11月13日(土)	知的・発達障害児(者)に鑑賞者としてのルール等を学んでもらうプログラム。 出演：アンサンブル・リュネット	目標値	180人
		熊本県立劇場 演劇ホール		実績値	249人

※ …新型コロナウイルス感染症の影響があったもの

## 2. 自己評価

### (1) 妥当性

自己評価
社会的役割等（ミッション）や地域の特性等に基づき、事業が適切に組み立てられ、当初の予定通りに事業が進められていたか。
運営方針や地域のニーズ等を踏まえて設定した4つのミッションに基づき、下記の通り事業を組み立てた。新型コロナウイルス感染症の影響で一部事業を中止したものの、できる限り当初の目標を達成するべく努めた。
<u>ミッション1 こころの復興、共生の場としての劇場</u> 誰もが文化芸術に触れ、感動し、共感できる共生の場の劇場としての役割を果たすため、 <b>普及啓発事業①～⑤</b> を企画。同①は初めて参加する産山村を含む6市町村40コマ、同②は6市町村6公演を実施。文化芸術に触れる機会の少ない地域でのアート体験や鑑賞機会を提供した。同③は新型コロナウイルス感染症の影響でコンサートホール編を中止したが、出演者協力のもと動画収録を実施。県立劇場館内の大型画面での放映のほか、公式YouTubeチャンネルでの配信により幅広い層のお客様に提供した。同④は水俣病の被害地域でもあり、これまで美術による心の復興に注力してきたつなぎ美術館と連携。開催の機会が少ない演奏会を実施し、こころの復興に繋げた。同⑤では、障害の有無に関係なく文化芸術に触れ親しむ機会を提供し、誰もが文化芸術に触れることができる環境づくりに寄与した。
<u>ミッション2 県内文化ホールの中核施設としての劇場</u> <b>普及啓発事業①②④</b> は、県内市町村の文化施設と連携して実施。各地が抱える課題やニーズを聞き取り県下全域で文化芸術に触れる機会を創出した。コロナ禍での中止や延期が生じたが大部分を予定通り進めることができた。
<u>ミッション3 未来を担う世代を育成する劇場</u> <b>人材養成事業①</b> は市町村ホール職員の専門性向上を目的として実施。コロナ禍で予定どおりとはいかなかったものの、延期調整を重ね、予定していた9回全てを実施した。同②では、未来を担う次世代の舞台技術者を育成することを目的として企画。予定以上の参加者を迎えて実施した。
<u>ミッション4 県民の文化芸術鑑賞（活動）の殿堂としての劇場</u> 良質な舞台芸術鑑賞の機会を提供するため企画した <b>公演事業①</b> は、感染対策を十分にとり予定通り実施。同②はコロナ禍で必要な稽古回数が調整できずやむなく公演を中止したが、出演者達がプロによる指導を受ける機会を得るなど、県民の文化活動を充実させることに繋げた。
助成に値する文化的、社会的、経済的意義等が継続して認められるか。
文化的意義：熊本にいながらプロの実演家による指導を受ける機会（公演事業②）や、質の高い実演芸術を鑑賞する機会（同①）を提供するほか、だれもが芸術文化に触れることができる機会（普及啓発事業①～⑤）を創ることで、熊本県の文化・芸術の水準向上に寄与するだけでなく、これまで連携・協力してきた県内各地のホールにも同様に「平等な鑑賞機会づくり」についての意識が根付き、広がっている。
経済的意義：良質な舞台芸術公演の鑑賞機会の提供のほか、それらを支える人材を育てる事業（普及啓発事業①②、人材養成事業①）、舞台芸術の未来を担う世代の育成を目的とした事業（人材養成事業②）を実施。県内各地のホールと連携し実施する中で、文化・芸術活動やホール運営について互いに協力し問題を解決できるパートナーシップを結ぶことができ、熊本県の文化芸術のハブ機関としての役割を果たしている。
社会的意義：本市内に集中していた舞台芸術公演を県内各地域の文化施設で実施（普及啓発事業②④）。当該地域での消費活動にもつながり、経済的にも貢献している。

## (2) 有効性

### 自己評価

目標を達成したか。

#### 【1. 公演事業】

##### 目標 (1) 県民の文化芸術活動の充実と良質な舞台芸術公演鑑賞機会の提供 (事業①、②)

指標	事業番号	目標値	実績
① 創作公演における県民参加者数	②	60人	—
② 満足度	①・②	平均 95%	99.7%
③ 新規顧客数		平均 10%	13.3%
④ 青少年鑑賞者数		計 400人	220人
⑤ 障がい者の鑑賞者数		計 50人	22人

指標②③は目標達成。アンケート回収率 47.4%、公演満足度 99.7%と非常に高い満足度となった。指標①④⑤は事業②の中止により目標未達となったが、稽古過程において地元の若手ダンサー達がプロダンサーから直接指導を受ける機会を 19 回設け、県民の文化芸術活動の充実を達成できた。

#### 【2. 人材養成事業】

##### 目標 (1) 熊本県内の公共ホール職員の専門性・資質の向上 (事業①)

##### 目標 (2) 舞台スタッフや制作者等、舞台芸術を担う業種を志す青少年を育成する (事業②)

目標・指標	(1) 事業番号①		(2) 事業番号②	
	目標値	実績	目標値	実績
(1)(2)① 参加者数	270人	236人	20人	30人
(1)(2)② 満足度	95%	94%	95%	95%
(1) ③ 習熟度	a. スキルアップにつながった	100%に	90%以上	96%
	b. これからの活動に役立ちそう	近い数値		
(2) ④ 興味の増大			90%以上	100%
(1)(2)⑤ 向上性	a. もっと深く知りたくなった	—	92.6%	93%
(2) ④ 外部有識者による定性評価	「どのように舞台を作っていくのか、作品を見てもらうだけでなく裏側をみてもらうことは、若い人たちの進路選択において大きな価値がある。劇場の役割として、どんな仕事をすれば、公演ができあがっていくのか伝えることは大事」「人材育成は地味で大変だが、それがなければ舞台は成り立たないので続けてほしい」といった声があがった。			

目標 (1) 指標①②は、コロナ禍により参加自粛が増加。僅かに目標値に届かなかった。事業①では、その道のプロから直接学ぶことができ、受講者から「何気なくやっていたマイク位置等、明確になった点が多々あり面白かった」という声が聞かれるなど、専門職員も満足する内容で専門性・資質の向上に寄与した。また事業②では、受講後に舞台技術職のアルバイトを始める学生も出るなど大きな成果を残した。

#### 【3. 普及啓発事業】

##### 目標 (1) 文化芸術の裾野の拡大 (事業①～④)

##### 目標 (2) 誰もが文化芸術に親しめる環境づくり (事業⑤)

目標	指標	事業番号	目標値	実績	
(1)	① 興味の増大 1	①	a. 満足度	80%以上	97.2%
			b. 演奏してみたいとなった	—	70.6%
			c. 音楽が好きになった	—	80.1%
	② 波及効果	②・④	a. 家族に話したくなった	75%以上	74.7%
	③ 地方在住者の鑑賞機会の確保		2,500人	1,537人	
(2)	④ 過去の鑑賞機会の有無 (初めての鑑賞)	③	—	21.4%	
			⑤ 興味の増大 2	—	94.4%
	⑤ 興味の増大 2	—	100%		
(2)	① 満足度	⑤	90%以上	90.1%	
	② 外出のハードルが下がったか		70%以上	88.8%	

コロナ禍により事業②のうち 3 公演が中止することで目標 (1) 指標③が目標値の 61.5%に留まったが、同指標④初めての実演芸術公演鑑賞が 21.4%に達するなど、文化芸術の裾野の拡大に寄与できた。事業⑤では 88.8%が「これをきっかけに街の劇場やホールに行きたくなった」と回答。演奏会に行くことに不安があった参加者も体験を経て自信を持ち、誰もが文化芸術に楽しめる環境に一歩近づいた。

### (3) 効率性

#### 自己評価

アウトプットに対して、事業期間が適切で、当初の計画通りに進んだか。

##### 【公演事業】

事業①では広報期間の短縮やチケット発売時期の変更等はあったものの、公演自体のスケジュール変更はなく、予定通りに本番を迎えることができた。事業②については新型コロナウイルス感染症の影響で必要なリハーサル回数の確保ができず、やむなく中止とした。

##### 【人材養成事業】

事業①は新型コロナウイルス感染症の影響で一部変更が生じたが、日程変更や講師の調整を行い当初の予定回数を減らすことなく実施することができた。事業②では当初は3日間開催としていたが、東京五輪の開催延期に伴い、令和3年度の祝日が一部変更となり、2日間での実施とした。

##### 【普及啓発事業】

事業①、②新型コロナウイルス感染症の影響で一部を中止したが、そのほかは日程を調整し、計画通りにすすめることができた。

事業③新型コロナウイルス感染症の影響で一部中止や内容変更があったものの、急遽レクチャー動画を撮影し、劇場 YouTube チャンネルや、館内のデジタルサイネージでの定期放映など、新たなコンテンツとして活用することができた。

事業④感染症対策で実施回数を減らし、入場人数を制限しての実施とした。

事業⑤令和元年度から3年連続4回目の実施でスタッフの習熟度が上がったこともあり、制作・当日運営ともにスムーズに進行した。

アウトプットに対して、事業費が適切で、当初の計画通りに進んだか。

全体的に新型コロナウイルス感染症拡大による中止や変更に伴う支出増減が発生した。

##### 【公演事業】

事業①収入については客席使用率を100%から50%に引き下げた結果、減少を余儀なくされた。その一方で、アクロス福岡（福岡県）、とりぎん文化会館（鳥取県）と連携してツアーを実施。ツアースケジュールの調整や、3館合同で広報計画を立てるなど効率的に動いた結果、概ね想定通りの執行となった。事業②中止に伴い全体の支出および収入は大幅に減少した。

##### 【人材養成事業】

事業①度重なる日程変更や、内容見直しによる講師の変更等はあったが、収入・支出ともに概ね予定通りの執行となった。事業②では当初は外部講師を迎えて3日間の講座を実施する予定だったが、劇場のスタッフによる2日間の講座となったため、委託費が大幅に減り、事業費の抑制につながった。日程及び内容の変更に伴い入場料を減額したため、収入は想定よりも減少した。

##### 【普及啓発事業】

事業①、②新型コロナウイルス感染症拡大のため、一部中止および、県外演奏家派遣の制限などを受け、収入・支出ともに減少した。事業③についても新型コロナウイルス感染症拡大による中止および日程変更のため、収入が減少した。事業④では美術館と協働したことで宣伝費等の支出減となった。

事業⑤では想定よりも入場者数が増えたことにより収入は増加した。また、数年にわたり本事業を実施してきたことで、県立劇場の実施ノウハウが蓄積されており、業務の一部を担えるようになった。国際障害者交流センタービッグ・アイへの委託費を削減することができた。

## (4) 創造性

### 自己評価

地域の文化拠点としての機能を最大限に発揮する優れた事業であった（と認められる）か。

#### (1) 劇場・音楽堂等を象徴する人物、鍵となる人物（キーパーソン）の存在

平成 28 年 1 月から姜尚中（政治学者・東京大学名誉教授）が館長、理事長を務めている。就任以降地域に根差した「共生の劇場」を目指し、年齢や障害の有無に関わらず、誰もが等しく文化芸術に親しめる「劇場って楽しい！！」を始めとした事業を展開するほか、熊本地震で傷ついた被災者に寄り添う心の復興事業にも積極的に取り組んできた。また、財団及び県内公共ホールの専門人材育成に力を入れ、令和 2 年 3 月に「実演芸術を担う人材の育成基本計画」を策定。財団内の職員研修の充実や県内ホール職員を対象とした「劇場人育成プログラム」および「舞台技術の基礎講座」の実施等、舞台芸術に関わる人材の育成及び確保に積極的に取り組んだ。

#### (2) 提携団体の存在

実演芸術に関係する高等教育機関との連携による人材育成を目指し、令和元年度に平成音楽大学及び熊本デザイン専門学校と、令和 2 年度に熊本大学教育学部と連携協定を締結。学生たちの文化芸術に対する理解を深め、将来の劇場人育成に繋がられるよう、コンサートや社会包摂事業の共同企画・実施、舞台や衣装デザインの制作、インターンシップ生の受け入れ、コンサート時の学生集客に取り組んでいる。ほか、地域の芸術団体とも連携し、日々劇場の文化事業に対する意見や要望等の吸い上げを行い「熊本県芸術文化祭オープニングステージ」を始めとした協働事業を実施。一方的に文化芸術を押し付けるのではなく、地元の内情を知り、地元の人材を活かした事業実施を目指している。

#### (3) 創造活動に関わる建物設備および保全等

令和 2 年 10 月～令和 3 年 3 月にかけて、劇場の中期保全計画による改修工事を実施。舞台音響設備のデジタル化や舞台迫り機構の更新により、従来以上に安全で快適な舞台環境が実現した。それらの実績が評価され、令和 2 年には長期にわたり適切な維持保全を実施し、優れた改修を行った建築物に対し、（公社）ロングライフビル推進協会が贈る BELCA 賞を受賞した。さらに近年の文化事業では、ミッション 2 に掲げているように年齢や障害の有無にかかわらず、等しく文化芸術に親しめる環境整備に努めている。「劇場って楽しい！！」はその最たる事業あるが、今後よりハード面（バリアフリー）の整備が進むことで、さらに充実した事業企画を検討していきたい。

#### (4) 熊本県の文化の中核拠点としての企画および芸術性

熊本県立劇場は、1982 年の開館以降、県民が高度な舞台芸術に触れる中核拠点として機能してきた。公演事業では県立劇場が持つ 2 つの専用ホールの特色を生かし、良質なクラシック音楽や舞踏公演の提供を目的とした事業として「新日本フィルハーモニー管弦楽団」と「熊本県芸術文化祭オープニングステージ」を企画。「新日本フィルハーモニー管弦楽団」では青少年に質の高い実演芸術に触れる機会を提供するため、熊本県吹奏楽連盟と協力し中・高校生 110 人を招待した。また付随事業として、新日本フィル楽団員による高齢者福祉施設でのアウトリーチを実施。普段劇場に足を運ぶことが困難な層にも、良質な音楽を届けた。ほか、県外ホールとの連携等、充実した内容だったと評価できる。「熊本県芸術文化祭オープニングステージ」では昨年につき、県内の若手ダンサーによる島崎徹氏のコンテンポラリーダンス作品のほか、元牧阿佐美バレエ団トップダンサーの佐藤想美氏による子どもの新作クラシックバレエ作品を予定していたが、昨年同様、新型コロナウイルスの影響により中止した。公演は中止とはなったものの、島崎徹氏は国際的に活躍する振付家であり、その振付作品は芸術性の高さから国内外で高い評価を受けている。熊本にいながら直接島崎氏の指導を受け、作品に携わることができたのは若手ダンサーにとって大きな収穫となった。

人材養成事業では、「劇場人育成プログラム」にて舞台芸術を担う専門人材の育成及び確保に、「舞台技術の基礎講座」にて将来の舞台技術者養成に取り組んだ。どちらも体系的な研修プログラムを作成し、様々な分野の



専門家を講師に招き実施した。

普及啓発事業では、誰もが文化芸術に親しめる環境づくりを目指し、生の舞台芸術に親しむ機会が少ない過疎地域の住民や子どもたち、障がいを持つ方へアプローチした事業を展開している。「演奏家派遣アウトリーチ事業」では、クラシック音楽の魅力を伝えるためプロの演奏家が子どもたちの間近で演奏することや楽器の体験活動が大きな魅力だったが、新型コロナウイルスの影響で難しく、手を叩いてリズムを感じる体験などに変更した。

「市町村ホールネットワーク事業」では開催市町村のニーズに合わせた公演が提供できるようアーティストラインアップを見直し、各市町村が希望する演目等を聞き取りながらつくる「オーダーメイド型」も取り入れた。オーダーメイドという形を取ることで、より地域のニーズに応じた公演の組み立てが可能となった。「劇場って楽しい！！」は、普段劇場に行くことが難しい知的・発達障害を持つ方を対象に、劇場という空間に慣れることや鑑賞するルールを学ぶことができる公演である。障がいの特性を事前に聞き取り、必要なケアを想定して実施した。上記のどの事業も県立劇場が継続的に取り組み、例年の事業として認知・定着されてきたものであるが、実施にあたっては開催市町村やアーティスト、知的・発達障害に関する専門機関との連携が不可欠である。今後も県立劇場のネットワークを生かし、地域の文化拠点として、特色ある企画の立案及び実施に取り組んでいく。

#### 自己評価

地域の実演芸術等の振興など、地域の文化芸術の発展につながった（と認められる）か。

平成 30 年に熊本県立劇場条例が一部改正され、県立劇場が果たすべき役割として「実演芸術の振興を担う人材の育成・確保」と「実演芸術の振興のための地域との連携」が追加された。このことを熊本県（民）というステークホルダーからの要請と捉え、劇場の資源を重点的に投入し事業に取り組んだ。

具体的には、令和元年に熊本県公立文化施設協議会の 35 の加盟館の運営状況を調査（熊本県公立文化施設協議会運営状況調査）し、人材育成状況や各館が抱えている諸問題を分析。それぞれの施設単位では職員の専門性向上の研修などが実施できていなかったことから、公立文化施設職員向けの「劇場人育成プログラム」の実施を決めた。令和 3 年度のカリキュラムには感染症の影響を反映させ、コロナ禍での文化政策の提言（基調講演）や、ウィズコロナ・アフターコロナにおける広報、オンライン配信に関する著作権講座や映像配信の方法などを取り入れた。実施後に行ったアンケートでの満足度の平均は 94%と高水準だったことから充実したプログラムを提供できたと評価する。アンケートでは他に「スキルアップにつながった」、「これからの活動に役立った」の項目を設け、それぞれ 90%以上の高評価を獲得し、参加者の習熟度が高まったといえる。将来の舞台技術者の育成を目指し実施した「舞台技術の基礎講座」でもアンケート満足度 95%を達成。「予想以上に舞台装置に触ることができた」「実践的なものが多かった」等の意見があり、参加者のニーズに沿った専門的な講座を開くことができると言える。外部の評価機関として県内有識者で構成する文化事業評価委員からは「作品だけを見てもらうのではなく裏側をみてもらうことは、若い人たちの進路選択において大きな価値がある。劇場の役割として、裏方でどんな仕事をすれば、公演ができあがっていくのか伝えることは大事」との評価を受けた。

「演奏家派遣アウトリーチ事業」、「市町村ホールネットワーク事業」は、市町村の教育委員会や公立文化施設との協働で実施。コロナ禍でも安心して実施できるよう、県立劇場が加盟する劇場、音楽堂等連絡協議会等から全国の最新の感染対策情報を収集し、教育委員会や公立文化施設に共有した。中でも「演奏家派遣アウトリーチ事業」は身近な場所において生でプロフェッショナルの演奏を聴けることから学校現場からは継続実施を望む声が多く寄せられた。児童へのアンケートによると、70.6%が「楽器を演奏してみたくなった」、50.9%が「コンサートに行きたくなった」、80.1%が「前よりも音楽が好きになった」と回答。波及効果も窺える結果となった。また、「劇場って楽しい！！」においては 3 年にわたる活動が評価され、担当者が劇場・音楽堂等における社会包摂「芸術×福祉ネットワーク会議」構成員に就任。会議での事例発表や情報交換等を通じ、社会包摂に必要なノウハウの共有や人材育成、プログラム開発等を協働するネットワークを構築することができた。

## (5) 持続性

### 自己評価

事業を通じて組織活動が持続的に発展する（と認められる）か。

平成18年から同30年までは公募による指定管理だったが、関係機関との連携や文化事業による県民への普及啓発活動等が評価され、令和元年度から非公募による指定管理者となった。これにより、県の文化行政とさらに連携を密にし、安定的で持続可能な組織運営体制の構築を図っている。具体的な取り組みは下記の通り。

#### 【事業運営】

令和3年度事業については、劇場の果たすべき役割や使命を踏まえた上で、新型コロナウイルス感染症の影響等を考慮し事業計画を策定。リスクレベルに応じ、可能な限り柔軟にスケジュールを調整し実施した。事業実施後は担当グループ内で振り返りを実施し、観客アンケートの分析も織り込んだ「個別事業評価シート」を作成するなど自己評価を実施している。併せて、県内各地の文化に関わる有識者で構成する外部評価委員会「文化事業評価委員会」を定期的に開催。個別事業の目標達成度を測り、事業改善に向けた意見徴取を行い、次年度事業計画に反映している。

#### 【経営戦略（財務面）】

公益法人の財務基準をクリアし健全な財務状況を維持している。財源の確保にあたっては、県からの委託費を基本として、文化庁（地域の中核劇場・音楽堂等強化推進事業）や（一財）地域創造（地域の文化・芸術活動助成事業）から助成採択されるほか、共催相手方からの制作受託金（令和3年度はコロナにより公演中止）、市町村負担金（令和3年度実績5,840千円）等、多様な財源を確保。また、平成30年度からは熊本市民会館の自主事業制作を受託、業務拡大により経営の安定化を図っている。

#### 【組織体制面】

事務局体制は、総務、施設サービス、舞台技術、事業の4グループ制にて、正職員15名、契約職員5名、嘱託職員（再雇用職員）2名、舞台常駐委託職員6名で運営している。契約職員の正職員登用により、正規雇用率は平成28年度の約52%から令和3年度には約68%に改善。さらに有期契約職員の無期転換等により雇用の安定化を図り、安定的で持続可能な運営体制の整備を進めた。

職員の人材育成面では、令和元年度に策定した人材育成基本方針により、「多様な人材の確保」「適正な評価による育成と登用」を進め、令和2年度から新たな人事評価制度による職員の能力開発をスタートしている。

#### 【ネットワークの構築】

九州各県や全国の劇場・音楽堂等との幅広いネットワークを持つ、熊本県内唯一の劇場である。

平成10年に九州内拠点ホールによるネットワーク「九州類似ホール連絡会」を立ち上げ、毎年定期的な会議を行う等リーダー的役割を果たしている。また、全国公立文化施設協会専門委員会の特別環境部会へ委員として参加しているほか、劇場・音楽堂等連絡協議会では、九州から唯一事務局メンバーとして参加している。

また、県内においては、35館が加盟する熊本県公立文化施設協議会の会長館として、県内全域の文化振興と舞台芸術のレベルアップを図るため、県立劇場からの派遣指導や県立劇場での受入研修、県内公立文化ホール自主文化事業の企画制作支援、ネットワーク事業やアウトリーチ事業の共同実施等を積極的に行っている。

その他、高等教育機関との連携強化のため、令和2年3月に平成音楽大学および熊本デザイン専門学校、令和3年3月に熊本大学教育学部と人材育成に係る連携協定を締結した。今後さらに連携協定を広げることで、これまでの取組みをより一層強化するとともに、新たな地域文化の創造・振興と人材育成を継続的に行うことができる体制を整えたい考えである。